編集後記

近大医誌48巻3，4号及びActa Med Kindai Univ Vol.48 No.2にご寄稿いただきました先生方，ありがとうございました．今回も質の高い論文が多く集まりました．この場を借りてお礼申し上げます．

さて，今回の巻頭言は泌尿器科学の植村天受教授にご依頼させていただきました．癌免疫療法は私の専門分野でもあり，若輩者の私には知らなかったことも多く，植村先生の記事を大変興味深く読ませていただきました．私が留学先をチューリッヒ大学に選んだのは，CTLA-4阻害薬がメラノーマに有効とNEJMに報告された翌年の2012年．当時まだがん免疫療法について無知だった私は，Reinhard Dummer教授のラボの門を叩きました．そこでは，今やがん治療の主流となった免疫チェックポイント阻害剤の治験をはじめ，聞いたことのない新薬が手元にあり，トランスレーショナルリサーチが活発に行われていました．当時は毎週のように発表されるビッグジャーナルの論文を読んで，メラノーマが治る時代が来た，と感じていました（実際は，まだまだ治療が難しい癌腫だと感じています）．Dummer先生はその後，一躍時の人となり，ASCOやESMOのシンポジストの常連となり，NEJMに毎週のように著者として登場するようになりました．勢いのあるラボに留学できたことは，私の研究人生で大きな糧となっています．

最近の若手には留学希望者が少ないと聞きます．コロナ禍で外部との交流が制限され，円安が進むなかでは，なかなか海外で生活をするというのが厳しい状況だというのは十分理解できるところです．一方で，留学経験の諸先輩方は口を揃えて「留学はした方が良い」とおっしゃられます．私も，留学をしたことによって得た視点は多数あります．研究業績を上げることが留学の目的の一つではあるとは思いますが，それ以外にも海外という離れた場所から日本を見ることで，今まで気が付かなかった良い点や悪い点が見えてきます．近畿大学からも多くの留学希望者が出て，願わくば，近大医誌やActa Med Kindai Univに多数投稿してくれることを祈っております．

近畿大学医学雑誌　編集委員長
大　塚　篤　司

今年度，御多忙の中　近大医誌とActa Med Kindai Univに投稿された論文を査読して頂いた先生方に感謝の意を表して下記にお名前を列記致します．

有馬　秀二（腎臓内科）
今野　弘規（公衆衛生学）
上田　和毅（内視鏡外科）
奥村　二郎（環境医学・行動科学）
川上　尚人（腫瘍内科）
木下　浩二（血液・膠原病内科）
高嶋　直敬（公衆衛生学）
髙橋　　淳（脳神経外科）
津谷　康大（呼吸器外科）
所　　忠男（下部消化器内科）
西田直生志（消化器内科）
福田　昌彦（奈良病院　眼科）
松本　長太（眼科）
松本　久子（呼吸器・アレルギー内科）
水越　厚史（環境医学・行動科学）
柳　　雅也（精神神経科）

近 畿 大 学 医 学 会 役 員

会　長	松 村　到	幹　事（編集）	大 塚 篤 司
副会長	東 田 有 智	監　事	重 吉 康 史
幹　事（庶務）	松 村 謙 臣	評 議 員	医学部主任教授
幹　事（会計）	奥 村 二 郎		

編 集 委 員 会

大 塚 篤 司（編集長）

伊藤 彰彦　岩永 賢司（教育講座）　上硲 俊法　中川 和彦

西尾 和人（シリーズ最新のがん）

「原稿作成の手引き」は各巻の第１号にあります。
また必要な方は編集部宛お申込み下さい。

近畿大学医学雑誌

第48巻　第３・４号

令和５年12月４日　印刷
令和５年12月15日　発行

発 行 人　松 村　到

編 集 人　大 塚 篤 司

発 行 所　近 畿 大 学 医 学 会

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377番地の2
近畿大学医学部内

印　　刷　AP リ ュ ー ブ ン 合同会社

本書の内容を無断で複写・複製・転載すると，著作権・
出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。